

V 調査結果のまとめ

学力状況調査の結果からは、亀岡市全体としては、中3国語を除き全国の平均正答率を下回っている。一昨年度に比べ、中3国語で全国の平均正答率を上回った学校数は増えているなど、各校における授業改善の取組の成果が着実に見え始めている。

一方で、学力状況調査の結果からは各教科における成果・課題も明確になってきている。成果としては、中学校で、国語における「全領域」、数学における「数と式」である。課題としては、小学校では、特に国語における「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」（思考力・判断力・表現力等）、算数における「Dデータの活用」、中学校では数学における「関数」「図形」である。各校において言語活動を柱に据え、新学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」を目指した一層の授業改善が求められる。

学習状況調査では、小学校・中学校・義務教育学校において、新型コロナウイルスの感染拡大による休校期間中における学習への不安については、全国の平均値を下回っているものの、今後もコロナ禍における学習活動において、不安感の解消や計画的な学習の継続に向けて、積極的なICT活用など、学習支援の充実に向けた研究が求められる。

また、小学校・中学校・義務教育学校において、自己肯定感・人権認識・規範意識・将来を展望する力等の非認知能力（数値で測りにくいとされる能力）で、全国の平均正答率を下回っている。非認知能力の高まりが、認知能力（テスト等の数値で測る能力）の向上につながるという研究結果もあることから、今後も、認知能力と非認知能力を一体的に育むことが期待される。

義務教育9年間の中で、すべての教育活動において自分の特性や長所等、自分自身を振り返る機会を設け、キャリア形成の観点から将来への見通しを持ち主体的に進路選択ができる力をつけさせることが求められる。

VI 学力の定着・向上へ向けての亀岡市の取組

(1) 各学校での取組

各学校では、全国学力・学習状況調査等の結果を分析し学力向上に向け以下のような取組を進めている。

ア 組織的な研究の推進

- 各校、学校長のリーダーシップの下、指導・研究体制が構築され、組織的な取組が推進されている。「学力分析」をテーマとした校内研修会や公開授業、事前研究会、事後研究会の充実が図られ、指導改善への研究が進んでいる。
- 組織的な論議を軸としながら、行事等の精選を行い、授業時数の確保につなげることができ、学力向上に向けた教職員の意識改革を促進させている。
- 各校の学力分析をもとに、学力向上に向けたPDCAサイクルが校内体制で確立されている。
- 授業研究を重ね、ふりかえり活動とともに予習を活かした授業づくりなどの研究を組織的に推進し、児童生徒の学びを育む授業スタイルが確立されている。
- 中学校教員が特定の教科で中学校ブロックの小学校への乗り入れ授業を行っている。ま

た、義務教育学校では教科によって後期課程の教員が前期課程で指導し、また前期課程の教員が後期課程で指導するなど各中学校ブロック、義務教育学校で活発な連携が図られている。

○個別型補充学習に複数体制で指導に入ることで、基礎基本の徹底が図られている。

イ 授業改善の取組（教科全般）

○探究的な学びを通して、児童生徒が主体的に課題と向き合い、自らの考えを持ち、考えを伝え合うことで、学びの意欲を高め、深まりを求める授業を推進する。

○1時間の授業で何を学習し、どんな力を児童生徒につけさせるのか「めあて」や「ねらい」を明示する。

○児童生徒が1時間の授業で何が分かり何ができたかを振り返り確かめることができる場面（メタ認知）を設ける。

○各教科の授業で、言語活動の充実を図り思考力、判断力、表現力を育む。

○「静の時間（思考の時間）」を確保し、自分の考えをまとめ発表させる。

○小グループ（ペアや3、4人グループ）に分かれて考えを交流し解決策を見出すために協議させる。

○音読活動。

ウ 国語科、算数・数学科における授業改善

(ア) 国語科

○言語についての知識・技能の定着を図るために、既習の内容を「話す・聞く」「書く」「読む」活動を通して活用させる活動。

○表現の効果を考えながら読んだり書いたりするとともに、その効果について自分の考えをまとめ、それを相互評価し合う活動。

○立場や根拠を明確にして、様々な条件に即して書く活動。

(イ) 算数・数学科

○問題場面を式・図・グラフなどで表し、それらを根拠とした判断や考え方を記述したり発表したりする活動。

○図形を観察・構成したり、図形について筋道を立てて考察し表現する活動。

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動。

エ 学びの基盤となる学習環境づくり推進

○互いに人権が尊重されることを土台として、生徒指導の三機能やユニバーサルデザインの視点を活かした学級経営の推進。

(2) 亀岡市教育委員会の取組

ア 魅力と特色ある学校づくり推進事業の実施

○学力向上に向けた組織体制を整え、役割分担を明確化にすることで、教職員のベクトル

を揃える。また、有識者を招き、学力分析や授業研究などにおいて、指導助言をもとにした研究推進を行っている。

イ 学力向上に係る学校訪問の実施

- 小学校中学年(特に3年生)に焦点を当て、授業改善等の教員のスキルアップを目指して全校へ指導主事による授業参観と指導助言を行っている。
また、教員のネットワークづくりとして、オンラインによる会議を行い、教材や指導上の工夫などをもとに、授業実践の交流を行っている。
- 各校の全国学力・学習状況調査等の分析結果をもとに指導助言を行い、各校の取組について聞き取りを行っている。

ウ 各校の優れた取組の普及

- 学校訪問で聞き取った各校の優れた取組を亀岡市内の小・中・義務教育学校に普及。

エ 研修講座の開催と指導助言

- 教員一人一人の授業力の向上を目的とした研修講座(京都府南丹教育局と亀岡市教育委員会との共催)やみらい教育リサーチセンターにおける学力向上対策講座等の開催。指導主事による指導助言。

オ 学力充実 進路保障に向けた取組の推進

- 主に、小学4・5年生を対象にした「ジュニアわくわくスタディ」の実施
- 中学1年生を対象にした「中1振り返り集中学習(『ふりスタ』)」中学2年生を対象とした「中2学力アップ集中講座」の実施
- 中学3年生を対象にした「地域未来塾」の実施

カ 支援の必要な児童生徒に対し、支援員による学習支援の実施